

かがやく明日のために

With You



NAGANO

Vol.81

編集：With You 編集委員
発行：長野市男女共同参画センター

長野市男女共同参画情報紙「With You」は、男女共同参画社会づくりに向け、市民編集委員がさまざまな視点から情報を発信しています。

今回は、住民自治協議会の発足当初から地域で活躍を続けている女性に取材しました。

多様な視点を取り入れて 誰もが安心できる地域づくりを

「地区の役員」と聞くと、「男性中心の仕事」「負担が多い」というイメージを持つ人も少なくありません。地域をより住みやすくするために、住民の意見をまとめて、行政と一緒に取り組む「住民自治協議会」でも、女性はまだ少数派ですが、意欲的に取り組む人たちが活動を支えています。

朝陽地区もその一つ。さまざまな経験を持つ人が役員に加わることで、活動に配慮が行き届くようになり、支え合いやつながりも深まっています。今回は、令和4年に朝陽地区では女性として初となる桜新町区長に就任し、現在は朝陽地区住民自治協議会の安全・防災部会長の上松則子さんに、活動にかける思いをお聞きました。



きっかけは 公民館の市民講座から

上松さんが地域での活動をスタートさせたきっかけは、市立朝陽公民館で開催されていた市民講座でした。子育てがひと段落したタイミングで、新しいことに挑戦してみようと参加。なんと10年間、無欠席で受講したそうです。

「当時の公民館長が、10年間講座に通い続けたことを評価してくださって、朝陽地区の住民自治協議会が発足した平成20年に、赤十字奉仕団朝陽分団委員長に推薦してくれました。最初は大役だと断ったのですが、雪の中、何度も足を運んで熱心に誘っていただき、申し訳なく思ってお引き受けしたのが始まりです」。

役員を務めるうちに次々と新

しい役を任せられ、令和3年には桜新町の副区長、翌年には区長に。「初めての区長会で当時の事務局長から『朝陽で初の女性区長だから皆で支えていきましょう』と言われ、応援を感えてうれしかった」と頬をゆるめます。



地域活動を通じて、多くの人と知り合い、仲間の輪が広がったそうです

防災に多様な視点を 誰もが安心できる地域へ



朝陽地区の住民自治協議会では、さまざまな取り組みを発信しています

長年力を注いできたのは、防災活動です。コロナ禍に、安全・防災部会で初めて防災備蓄倉庫の視察研修を実施したところ、車が横づけできない場所に設置してあり、またソーラーが壊れ倉庫内の電灯がつかないなどの課題が判明。「災害時だったら大変だった」と通常時の点検の重要性を改めて実感しました。視察での指摘が改善に結びつき、倉庫はより適切な場所へ移転されました。

近年は自然災害が増え、防災・

減災への備えはますます重要になっています。地域での訓練や備蓄の充実はもちろんですが、避難所運営には、多様な視点からの配慮が欠かせません。高齢者への配慮や、授乳やおむつ替えのスペースなど、いろいろな視点を取り入れることで、災害時でも誰もが安心して過ごせる地域づくりにつながります。

また、区長就任直前には「公民館のトイレが男女共同で使いたくてもいつも我慢している」という女性の声が届きました。災害時に一時避難場所となる公民館で、トイレをためらう人がいるのはよくないと補助金制度を活用して改修に着手。反対意見もありましたが「災害はいっ起きるかわからない。今できることをやるべきだと考えました」と話します。

トイレの改修が完了した際には、「実は男性からも良いことをしてくれた。男性も気にする人はいるんです」と声をかけてもらいました。

家族と地域の支えが活動の力に

上松さんは薬剤師として働きながら、仕事や家庭、地域活動を両立し、さまざまな経験を積

んできました。活動を続けるうえで欠かせないのは、家族の支えです。夫や子どもたちも活動を応援してくれ、「家族のおかげでここまで続けられた」と家族への感謝を口にします。

また、自分や子どもたちが生まれ育った地域への感謝も活動の原動力です。「子育て中は目の前のことで精一杯でしたが、今振り返ると、地域の皆さんが子どもたちを温かく見守り、支えてくれたことがよくわかります。その感謝の気持ちを少しでも返したいと思い、役員を引き受けています」と活動への思いを語ります。

やさしさが循環し 住みやすい町に

さまざまな地域の役職で、成り手の減少に悩んでいるのは朝陽地区でも同じです。上松さんは「一歩踏み出すと、いろいろな人とながれるだけでなく、学びもあります。振り返ると、今が人生で一番充実しています」。

地域のメンバーが持つさまざまな視点が、誰にとっても住みやすい町を作ります。ただ、子育てや介護で忙しい時期に役を担うのは簡単ではありません。



忙しい時期にある人たちへ、「無理に今、引き受ける必要はないんです。落ち着いた時期に参加してもらえれば十分。私自身もその言葉に救われた経験があるので、そう伝えたいですね」と語ってくれました。

「私は頼りにしてもらえることがうれしいですし、少しでも誰かの力になれることが何よりの喜びです。そうした思いが地域の中で循環していくといいなと思っています」。

受け取ったやさしさを、さらに次の人へ。思いやりの輪が広がることで、朝陽地区は温かさを増していくようです。

●編集後記

インタビューの始めから終わりまで、これまでの活動や取り組みにかける思いを、生き生きと温かく語ってくださいました上松さん。地域で多様な人が活動することが、より優しく住みやすい社会への第一歩であることを改めて実感しました。

(執筆…鳥羽彩加)

国際ソロプチミスト
長野ーみすず様より、
男女共同参画事業
への活用を目的に、
LEDメッセージボード
を寄贈していただき
ました。

お問い合わせ

長野市男女共同参画センター

(指定管理者 (協)長野シーアイ開発センター)

〒380-0814 長野市大字鶴賀西鶴賀町1481-1

勤労者女性会館しなのき 内

☎026-237-8303